

土佐のわらべ

第376号《第398回（2012. 10. 11）子どもの本の読書会記録》参加者5名・文書参加3名

『めざめれば魔女』 マーガレット・マーヒー／作 清水真砂子／訳 岩波書店

マーガレット・マーヒーはニュージーランドの児童文学作家です。『魔法使いのチョコレート・ケーキ』など、児童向けの面白い作品もありますが、どちらかといえば、ヤングアダルト作家。この『めざめれば魔女』もヤングアダルト作品です。

主人公のローラは14歳の女の子。家族は離婚した母親と弟のジャックとの3人暮らし。時代が違うとはいえ、テレビもないし、乗っている自家用車ときたらとんでもないぼろ車。要するにとっても貧乏。母親のケートは本屋で働いているのですが、最近ボーイフレンドができて、思春期のローラはそんな母親にあまりいい気持ちがありません。

そんなローラは時々「前ぶれ」を感じることがあり、なぜか優等生の転校生ソリー（ソレンセン）が魔女（男なのに）だと見抜いています。

事件は突然起こりました。「前ぶれ」を感じていたのに、愛する弟のジャックに呪いがかけられてしまったのです。

ブラックに生気を吸い取られ、日に日に弱っていくジャック。でも、それが呪いのせいだと見抜いているのは自分だけ。ローラは“魔女”であるソリーに助けを求めます。

悪霊カーモディ・ブラックの魔の手からジャックを救出するのが縦糸だとすると、それに母親の恋愛、実の父親との葛藤、ローラ自身の恋愛が横糸として絡み、なおかつ現実と魔法が入り乱れます。ローラだけでなく恋の相手ソリーの生い立ちも複雑です。こんなに盛りだくさんでまとまるのか！と、そこは、さすがマーヒー、きちんとまとめます。

ブラックとの戦いを通して、ローラは思春期の階段を一段上がり、ソリーも人間として成長します。現実の部分とファンタジーの部分が巧みに織りあわさっていて、とっぴな事件もすんなりと受け止められるのが不思議です。

読書会での共通した感想として、家の室内や食べ物など生活の描写がていねいに書かれている。表紙の顔がインパクトがありすぎて怖い！ローラの心の動きがリアルですごくドキドキする。などがありました。

マーヒーさんは今年7月、病気のためクライストチャーチで帰らぬ人となりました。すばらしい作品をたくさん残してくださったマーヒーさんに哀悼の意をこめて、合掌。

主な受賞作

『足音がやってくる』1983年 カーネギー賞

『めざめれば魔女』1985年 カーネギー賞

『贈りものは宇宙のカタログ』

2005年 フェニックス賞

『ゆがめられた記憶』

2007年 フェニックス賞

2006年国際アンデルセン賞作家賞

2012年7月23日 76歳没

(S. K)